

【日時】2025年8月18日（月）

【方法】会場現地とオンラインのハイブリッド開催

【会場】①大阪公立大学 I-site なんば（大阪市浪速区敷津東 2-1-41）

<https://www.omu.ac.jp/isite/>

②Zoom 利用（聴講方法は、申込時に別途ご連絡）

【主催】一般社団法人エレクトロニクス実装学会ヘルスケアエレクトロニクス研究会

【共催】スマートテキスタイル研究会、大阪公立大学・医学研究科・獣医学研究科・工学研究科

【内容】『日本発ヘルスケアベンチャーの現状と課題』

13:00～13:10	オープニング 主査挨拶、本日の講演について
13:05～13:50	講演（1）「医療機器研究開発を中心とする AMED の支援制度について」 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 岩田 倫明氏 AMED では、成果を一刻も早く実用化し患者さんやご家族の元にお届けすることを目指し、特に医療機器分野については「医療機器・ヘルスケアプロジェクト」の各事業を通じて、基礎研究から実用化に至る一貫した研究開発を推進しているところである。本発表では、医療機器研究開発課で実施しているまたは実施する予定の事業について網羅的に紹介する。
13:50～14:35	講演（2）「臨床現場から始めるバイオデザイン思考の医療機器開発」 東京大学 大学院工学系研究科 多川 友作氏 バイオデザインとは、Identify(ニーズを同定し)、Invent（研究開発を行い）、Implement(社会実装する)の工程を経て医療機器を患者に届ける方法論である。工学者である講演者が1年間にわたるバイオデザイン学を医師らとともにを行い、癒着性小腸閉塞における治療において大きな社会課題があることを同定した。本講演では、医療ニーズを基軸にした研究開発及び社会実装において、工学者の観点から重要な点について述べる。
14:35～15:20	講演（3）「ヘルメット装着型発汗計測機器を用いた熱中症予防ビジネスの紹介」 カナルウォーター株式会社 小須田 司氏 熱中症発症者数は年々増加傾向で、特に夏の建設現場での熱中症リスク管理は大きな問題である。我々は建設現場で着用義務のあるヘルメットに着目し、ヘルメット装着型で発汗量、WBGT、心拍等が計測できるウェアラブルデバイスを開発した。それを活用した熱中症リスク管理サービスの概要を紹介し、皆様からご意見やご指摘を頂くことで、今後の事業展開のヒントとしたい。
15:30～16:15	講演（4）「2種類のドップラーセンサの製品化とその起業についての課題」 Palmens 株式会社 澤田 廉士氏 これまで色々な研究開発してきた中で、有用なマイクロエンコーダ（ドップラーセンサ）とマイクロ血流量センサが使用されないで終わることに心残りがある。ドップラーセンサは例えばセンサを組み込んだロボットの指で掴んだ物の滑りをみることができ、血流に大きく影響を及ぼす接触圧を考慮した血流量センサは高い再現性の測定には不可欠である。両センサの製品化をめざし、起業に至った経緯や課題を含め講演する。
16:15～17:00	講演（5）「国産手術支援ロボット hinotori におけるロボット稼働ログ解析の活用 ～医工連携の取り組み～」 神戸大学 大学院医学研究科 植木 秀登氏 現在我々は、国産手術支援ロボット hinotori の術中動画による手術フェーズ自動認識技術と、ロボット稼働ログ解析による手術評価手法の開発を進めている。膨大な操作ログから術者の動作特性や効率性を抽出し、客観的評価指標の確立を目指す。医工連携で得た知見を基に、将来的にはこれらの技術をロボットに実装し、リアルタイム手術支援や教育システムとして手術アウトカムの改善に貢献する計画である。
17:10～17:40	パネルディスカッション
17:50～19:30	技術交流会（現地別会場）